

6 内陸部（里地里山・田園地域）

農地，ため池，住宅地，樹林地などが混在する，山地丘陵部の自然性の高い地域と沿岸部の都市的地域の中間に位置する地域です。蒲田，立花寺，金隈，桧原，柏原，内野，脇山，今宿，元岡，小田などに特徴づけられます。

水田，ため池などの湿地や草地に生息・生育する生物の生息・生育環境として重要な地域です。市街地の公園のみどりや水辺への生物の供給源として，これらの生物に配慮する必要があります。

《求められる環境の例》

- ・多くの二次林が自然の遷移にゆだねられ，一部の二次林では，多様な主体の協力によって積極的な維持管理が行われ，明るく親しみやすい森林として保全されている
- ・飯盛山や叶岳などでは，林業従事者の高齢化にともなう山の荒廃防止や国土保全の観点から，森林空間整備事業が進められ，市民，NPO等活動団体，事業者などと行政の連携・協力により間伐や雑草の除去，作業道や登山道の整備が行われ，自然観察などに適した明るい森が形成されている
- ・九州大学伊都キャンパスの生物多様性保全ゾーンをはじめ，市民のレクリエーション，里山文化や生物の多様性の大切さを学ぶ場が形成されている
- ・国内外に販路を拡大してブランド化に成功した農業により，農地の減少は鈍化し，多様な生物の生息生育環境が保たれる環境保全型農業が採用されている
- ・里地里山の価値が広く市民に認識され，市民，NPO等活動団体，事業者などが主体的・自発的にその保全に取り組み，里地里山が再生・創出・活用されている


※「生物多様性ふくおか戦略」より抜粋



写真 内陸部（里地里山・田園地域）

内陸部(里地里山・田園地域)の環境配慮の要点

環境配慮の対象とする環境要素	環境配慮の要点
環境の自然的構成要素の良好な状態の保持	排水による水質汚濁，幹線道路沿線での大気汚染，騒音・振動などの公害発生の防止に努めてください。
生物の多様性の確保及び自然環境の体系的保全	市街地，住宅地の公園の緑や水辺に生物を供給するため，周辺緑地や水辺環境との連続性を考慮した緑地整備・管理を行い，生態系ネットワークの形成に配慮してください。
人と自然との豊かな触れ合いの確保	田園景観が市民の憩いとなっているほか，市民農園などのレクリエーション地としても利用されています。施設等の配置やデザインは地域の状況にあうように検討してください。
環境への負荷の低減	廃棄物の発生抑制，再使用，再生利用のほか，再生可能エネルギーの利用，省エネルギー施設・燃料電池・雨水利用施設の導入等を検討してください。

地域特性	
●自然的条件	
地形等	東区，博多区，南区，城南区，早良区，西区に分布する。 多々良川，御笠川，那珂川，樋井川，室見川，瑞梅寺川によって形成された沖積平野の中流域に位置する部分と，標高50m前後よりなる山地の麓の扇状地が台地化した部分よりなる。
植生	河川沿いに開けた低平地では水田・休耕田が，山地，丘陵地寄りの標高の高い立地環境には畑・果樹園が分布している。近年，放置された果樹園には竹林が侵入しており，竹林の拡大が懸念されている。 ため池，社寺林が点在しており，水生植物群落をはじめ，自然性の高い植生が成立している。
生物多様性	内陸部(里地里山・田園地域)を特徴づける貴重・希少生物は，「起源の古い社叢林やため池」に生息・生育することが多い。 <内陸部(里地里山・田園地域)を特徴づける貴重・希少生物> 鳥類：ケリ，アマサギ，フクロウ 両生類：カスミサンショウウオ，ニホンアカガエル 魚類：ドジョウ，メダカ(ミナミメダカ) 植物：ハンノキ，ギンラン，ミズオオバコ 昆虫類：トゲアリ，ミズカマキリ，ヘイケボタル 氾濫原に形成された環境であり，主に水田，ため池などの湿地や草地から構成されているため，トンボなどの水生昆虫，魚類，両生類などにとって重要な生息環境となっている。市街住宅地の公園などの緑や水辺への生物の供給源として機能させるため，緑，水辺のネットワークの形成が望まれる。
	
	ケリ

●社会的条件	
生活環境	室見川，那珂川，多々良川は水道水源として利用されている。 幹線道路の沿線では自動車交通による沿道大気汚染，騒音・振動の発生影響が見られる。 博多区の空港付近では，航空機の進入ルート付近で，離発着による騒音の発生が見られる。 曲淵，小田・草場では，集落排水施設にて，し尿，生活雑排水等の汚水処理を行い，生活環境の向上や水質の保全を図っている。
景観・歴史	水田地帯に点在する集落やその背後に見える山地，丘陵地によって構成される田園景観は市民の憩いとなっており，市民農園や市民のレクリエーション地として利用されている。 西区は丸隈山古墳，大塚古墳，吉武高木遺跡など数多くの歴史的な資産に恵まれている。
その他	「生態系被害防止外来種リスト」には“産業管理外来種”として，牧草，養蜂の蜜源植物，果樹，施設栽培の受粉用資材など，農業に関連した種が記載されている。福岡市内で使用されているものもあり，適切な管理や利用の抑制が求められている。
環境配慮事項	
環境の自然的構成要素の良好な状態の保持	
周辺環境への大気汚染，騒音や振動，車両の走行による渋滞の助長対策	<input type="checkbox"/> 沿道に遮音壁を設置する。 <input type="checkbox"/> 道路を低騒音舗装にする。 <input type="checkbox"/> 施工規模に見合った低公害型・省エネルギー型の作業機械を導入する。 <input type="checkbox"/> 作業に伴う，騒音・振動，排気ガス，粉じんなどの発生・拡散を極力抑える工法を採用する。 <input type="checkbox"/> 資材等運搬車両，作業機械は，騒音・振動，排気ガス，粉じんの発生を極力抑えた運転を行う。 <input type="checkbox"/> 防音パネル・シートを設置し，施工時の騒音の拡散を抑制する。 <input type="checkbox"/> 工事は休日を避けるほか，工事車両の走行は一般車両の多い時間帯を避ける。
大気汚染や水質汚濁などの公害発生の防止	<input type="checkbox"/> 適切な作業・防じん対策，アスベスト対策，ダイオキシン類対策を実施する。 <input type="checkbox"/> 路面の改良・補修を適宜実施する。 <input type="checkbox"/> 作業機械は良質燃料を使用し，整備点検を適宜行う。 <input type="checkbox"/> コンクリート打設時のアルカリ性排水を中和処理する。 <input type="checkbox"/> 施設などにおいて，最新の環境保全設備の導入を図り，環境汚染物質の排出を抑制する。
生物の多様性の確保及び自然環境の体系的保全	
生態系への影響の軽減対策	<input type="checkbox"/> 法面や仮施設跡地，裸地は，表土の吹き付けなどにより在来植生の復元を図る。 <input type="checkbox"/> 施設周辺や壁面，屋上の緑化に努める。 <input type="checkbox"/> 濁りの発生が少ない工法を採用するなど，水質を保全する。 <input type="checkbox"/> 自然地形を活かした施設計画など，地形の改変面積や切土・盛土の土工量を極力少なくする。
貴重・希少生物等の生息・生育環境の保全	<input type="checkbox"/> 周辺緑地や水辺環境との連続性を考慮した緑地整備を行うとともに，植樹のタイプに応じた適切な管理を行い，生物の生息・生育場所としての質の向上を図る。 <input type="checkbox"/> 作業機械による周辺緑地等への立入や踏みつけに注意する。 <input type="checkbox"/> 人工光による影響を軽減するために，灯具の種類，設置数，位置，光色について検討する。 <input type="checkbox"/> 代替地の創造や移植を行う。 <input type="checkbox"/> 生物の生息・生育状況について，供用後のモニタリング調査を実施する。
外来生物対策	<input type="checkbox"/> 公園樹木，緑化植物は，公園の性格・特性にあった在来植物種を選定し，外来種を避ける。
人と自然との豊かな触れ合いの確保	
人と自然との触れ合いを考慮した施設構造の検討	<input type="checkbox"/> 木杭・石組など，自然素材を活用した施設を設置する。 <input type="checkbox"/> 橋脚や護岸，コンクリート施設などの配置やデザインや形状，色彩を工夫する。

環境への負荷の低減	
環境負荷の低減を考慮した計画	<ul style="list-style-type: none"> □ 施工方法の工夫や破碎、焼却、脱水、乾燥などによって廃棄物の減量化を図る。 □ 不法投棄を防止し、適正処分を徹底する。 □ 解体作業が発生する場合は分別解体に努め、再資源化率の向上を図る。 □ 路床材や舗装骨材、枕木は、極力再生品を調達する。 □ 熱帯木材型枠の使用を削減する。 □ 残土の現場内及び他工事での活用、再資源化などによる再利用を推進する。 □ 工程で発生した廃棄物の再使用、再利用を図る。 □ 雨水利用、中水利用、燃料電池、再生可能エネルギー利用施設の導入など、既存のライフラインに依存しない仕組みを検討する。